

山口県 阿武町  
町勢要覧  
2019



# ABU NO OTO

～ アブノオト ～

どこか懐かしく、そして新しい  
『アブノオト』。

# ABU NO OTO

～アブノオト～

寄せては返す波、風に揺られる木々の「自然のオト」

人々の営みと活気に満ちた「暮らしのオト」

歴史・文化、祭りでも高まる「脈のオト」

声をかけると必ず答えてくれる「人情のオト」

どこか懐かしく、そして新しい「アブノオト」

「打てば響く」まちが、ここにある

## 阿武町の概要

阿武町は、山口県の北部に位置し、萩市に囲まれるように隣接しています。海に面した奈古(なご)地区・宇田郷(うたごう)地区と、山間にある福賀(ふくが)地区からなり、日本海で獲れる新鮮な魚介類、寒暖差の大きい山間部で採れる高品質な農産物、豊かな自然でのびのびと育まれる畜産物など、雄大な自然とともに暮らす人口約3,300人の町です。

阿武町



山口県

## Contents

ABU NO OTO	02	まちづくりの福音	30
季節の音色	04	打てば響く、選ばれるまちへ	
暮らしの本音	08	[第6次阿武町総合計画]	36
モノづくりの鼓動	16	ABU TOWN MAP	40
歴史の余韻	24	萩ジオパーク	42
阿武町、誕生の足音	26	町長あいさつ	43



Spring

春

そよそよと優しく吹く風と共に、阿武町の春は訪れる。やわらかい光の中で、芽吹く草木、満開の桜。こいのぼりのはためく音が心地よく耳に響く。



梅雨明けと共に、紺碧の海・白砂の浜辺には多くの人押し寄せる。航海の安全や豊漁を祈る数々の盛大な祭りや花火が、阿武町の夏に彩りを添える。

夏

Summer



季節の  
音色

CONTENTS



「実は阿武町を選んだもう一つの理由として・・・」と切り出したイシダさん。「都会にはラジコンを作る場所も走らせる場所もないですが、ここだと海辺や河川敷に行けば、誰にも迷惑をかけずに好きだけ楽しめるんですよ。今はネットでパーツなどは簡単に手に入りますが、騒音等の問題から「作る場所」が減ってきています。そういった方へこの場所を活用して欲しいですね。」と笑顔で語る。また、自身のスキルを生かし、子ども向けのプログラミング教室も定期的開催。「子どもが夢中になりすぎて、なかなか帰れないんですよ」と苦笑いのお父さんを尻目に、子ども以上に楽しそうなイシダさんの熱弁は続く。

「作るひと」を創りたい  
鎌倉市から義母のふるさと萩市に嫁ターンしました。作業ができ、収納スペースも確保できる場所を探していたところ、妻が参加していた21世紀の暮らし方研究所(ラボ)のつながりで、阿武町を紹介してもらったんですよ。SEや、改造パーツを規格・設計したパソコンの販売など、いろんな仕事をしてみました。最近では古いパソコンをまだ使いたいというニーズを受け、今はこの工房でそういったサポートやパソコンの修理、カスタマイズ、アップグレードの仕事をしています。工房を作った当初はその怪しさ(笑)からあまり人が来ませんでした。が、今では、子どもから大人まで来てくれています。実は、プラモデルやラジコン、ミニ四駆などの玩具には、仕事にも通じる要素が凝縮されていて、エンジニアリングの基礎やプログラミング、PDCAの視点も入っていて、すごく奥深い

column

ホビー工房  
asta\*base

DIYやホビー制作スペースとして、工具の貸し出しも行っている。また、ミニ四駆や各種パーツなどの製品も取り揃えており、手ぶらでもモノづくりが楽しめる。定期的にレースの大会や体験会、プログラミング教室も実施し、モノづくりの楽しさを広める拠点となっている。



です。それを考えて日々を過ごしていたら、いつの間にか仕事になってしまった(笑)。せっかくいただいたご縁なので、僕のように趣味や好きなことをそのまま大人になっても仕事として続けていける子どもを育てたいと思っています。ここが単なる工房ではなく、「作る人」を創っていく場になること、これが僕のミッションだと考えているんですよ。



暮らしの本音  
イシダユキヒロ  
[asta\*base]





寒くても、子どもたちは元気いっぱい。対照的に、新芽たちは雪の下で出番をじっと待っている。春はもうすぐそこ。やわらかい光の季節がまた巡ってくる。

# 冬

W i n t e r



A u t u m n

# 秋

肥沃な大地に、黄金色の稲穂が秋の日差しを受けきらきらと輝く。冬を目前に、命をつなぐ多くの作物が収穫され、自然の実りに感謝して味わい尽くす。



① 齋藤 友紀奈

2017年に東京で開催された「全国版移住ドラフト会議」に指名候補者として参加。移住者を指名する団体に阿武町が参加していたことで、阿武町の存在を知る。その後直感と興味で阿武町を2018年に訪問し、阿武町のファンになる。移住を検討するため、阿武町に1週間お試し暮らしをすること。

② 鍋倉 旭

神奈川県鎌倉市生まれ。幼い頃から建築に興味があり、文化の視点から建築を学ぶため、大学では「比較文化」を専攻。卒業後、中古マンションをリノベーションする会社で敏腕を振るっていたが、建築や文化の視点から地域活性化に興味をいだき、地方移住を考えていたところ、阿武町に出会う。空き家を改装して「BARフジヤマ」をオープン、現在はインバウンドを見据えて、宿泊施設や交流拠点の整備に奔走中。

③ 吉岡 風詩乃

阿武町生まれ。高校は萩市、大学時は広島県に進学し、介護福祉を学ぶ。卒業後は、萩市の介護施設に就職し、7年ほど介護の仕事をしてきたが、地元の活性化に携わりたいと思い、阿武町に帰省。現在は「阿武町暮らし支援センターshuBaro」のスタッフとして関わる。

④ イシダ ユキヒロ

鎌倉市に住んでいたが、妻の母親のふるさと萩市に嫁ターン。法学部に進学したにも関わらず、もともとプラモデル作りやコンピューター好きだったのが高じ、システムエンジニアの道へ。現在は阿武町の空き家に工房を開き、パソコンの修理やカスタマイズ、アップグレード等のサポートの仕事をお願いされている。

# 暮らしたの本音

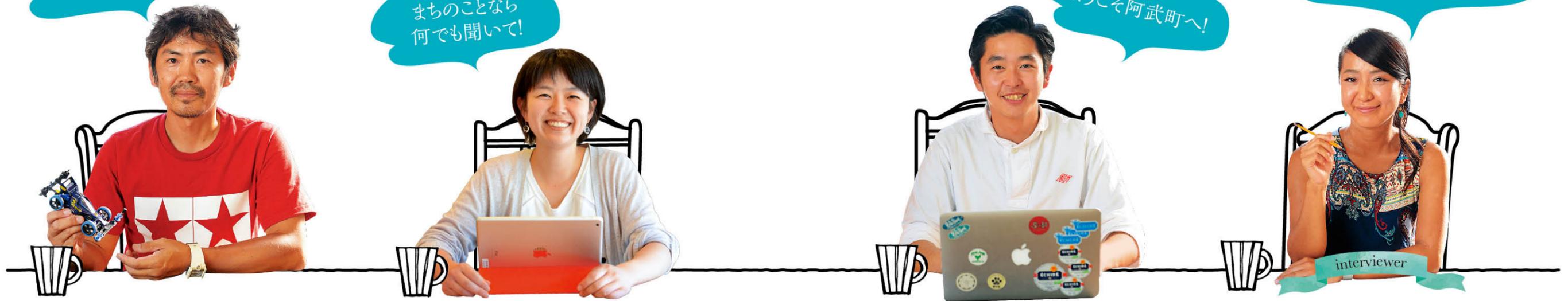
阿武町での暮らしに移住体験者の齋藤さんが聞いて来ました！

阿武町のステキなところをいろいろと教えてください!!  
阿武町の魅力をたくさん知りたいです☆

ようこそ阿武町へ!

まちのことなら何でも聞いて!

阿武でしかできないチャレンジに溢れている



Q 阿武町の魅力とは？

A 映画のワンシーンが  
生きたまち

まちの第一印象は綺麗な海。出会う人みな、人懐っこくてスルスルと阿武町に引き込まれ、初めての山口弁も温かい印象でした。その中に生きるレトロな商店街、海が似合うタラコ列車、現役漁師さんたちの笑顔。しっかりと現代の生活感があるのに、それでいて懐かしい、素敵なまちだと思います。

A 地元愛あふれるまち

年齢層は高いまちですが、皆さん元気でoshiろいですね。柔軟な考えの方が多く、チャレンジを後押ししてくれる、器が大きい町です。「自分たちの町は自分たちで守る」という使命感・地元愛がすごく、外からの移住者であっても「この町をよくしたい！」という思いがあれば、誰でも地域の中心になれるまちだと思いますよ。

A 心地よい時間の流れ

阿武町民は、口では「何にもないよ」と言いつつ、阿武町愛がとても強いんです。海や山をはじめ、町の人たちが手をかけ大切に守り続けて来たたくさんの美しい自然や風景がいたるところにあり、心地よい時間が流れています。

A 懐が深いまち

阿武町はコンパクトシティ。食べ物はおいしいし、生活用品も車で5分ほどほとんど揃います。この時代なので、ネットがあれば仕事や生活に不便はないですよ。

地域の行事に参加することがありますが、皆さんフレンドリーで、一風変わった仕事をしているよそ者の私を、温かく受け入れてくれる懐が深いまちというのも魅力です。

CONTENTS



阿武町には今までBARがなく、新しいコミュニティの形となればと思い、開業。今では地元民以外も来店し、地域住民との親交を創出する場となっている。「今後は、本格的な飲食と宿泊機能を追加して、阿武町での滞在時間を伸ばし、地域経済の活性化へ寄与する仕組みづくりを見つけない」と語る鍋倉さん。自身がプレイヤーである一方、新たなプレイヤーを見つけ育てることに積極的で、このたび、東京で出会った中村さん夫妻にこの場所をバトンタッチし、中村さん夫妻によって「阿武町ゲストハウス えのん」としてリニューアルオープンする。

祖父母が古民家再生の仕事をしていた、地方に仕事で出る時は僕がドライバーをしていたんです。そこで見るとまちや文化、古民家があっけなく、まちを活性化したい！」と考えていた時、東京のふるさと回帰支援センターで阿武町に出会いました。

訪問した時の空気感も自分にフィットしてましたし、阿武町が合併しなかったことや町の人たちの危機感ややる気を感じて、地域おこし協力隊に応募しました。

地域おこし協力隊の本来の役割は、地域の人の心に火を灯すことだと僕は思っています。そこで、地元の人が通うお店を作って、活性化させることに加えて、地域に雇用を生むローカルモデルになればと考え、空き家をリノベーションしてBARを開業しました。個人的な趣味もありますが、この小さな町で「ウイスキーに特化した店」は話題になると思ったのも理由で

阿武町には可能性しか感じない

すね。今では、町外・県外からもSNSを見ていただいた方々や口コミでのお客さんも増えています。

阿武町は、やる気とちよとした資金があれば、チャレンジできるまちです。しかも、そのチャレンジを応援してくれる人もたくさんいます。

今後は、もっと多くのプレイヤーが集うまちになるよう、まずは僕が成事例を生むことが目標ですね。

column

下請酒場  
BARフジヤマ

店名は、古民家の元の持ち主の名を継承。昔ながらの佇まいがどこか懐かしく、居心地のよさを感じさせてくれるウイスキー専門バー。

暮らしに寄り添う宿  
阿武町ゲストハウス えのん

東京のイベントで鍋倉さんと出会ったことがきっかけで移住してきた中村さん夫妻が運営するゲストハウス。「縁」と「恩」を紡ぐ阿武町のニュースポット。



暮らしの本音

鍋倉 旭

〔下請酒場 BARフジヤマ〕

「ガラガラ」  
「しらっしや」



暮らしの本音

吉岡風詩乃

【阿武町暮らし支援センター shiBano】



shiBanoでは、町民の「やりたい」「実現したい」を持ち寄り形にしてい、町民主体のワークショップが重ねられ、新たな企画が日々誕生している。また、地域住民の交流・憩いの場としても利用されており、子どもから高齢者まで、多くの町民同士が触れ合う場にもなっている。一方、shiBanoを運営する吉岡さんの笑顔がみたいと訪れる方もいるとか。自身のチャレンジを試す場であり、癒しの場でもあるshiBanoは、町民の第二の家として欠かせない存在となっているようだ。

### 町民同士の化学反応が起こる場に

阿武町に生まれ育ち、隣のまちで介護の仕事をしていましたが、遊びで訪れたゲストハウスでさまざまな生き方をする人々に出会い、肩書きのない生き方に驚きと新鮮さを感じました。

「阿武町大好き！」の視点で故郷を活性化させる「何か」がしたいと思い始めてから、不思議なことに「縁と出会いに恵まれ、現在は「阿武町暮らし支援センター shiBano」の運営に関わっています。ここは、地域住民が立ち寄る「憩いの場」であると同時に、例えば、自分のお店を出してみたいと考えている方が、お試して月1回出店してみるなど、経験を積む「チャレンジの場」としても活用してもらっています。将来、ここでチャレンジした方が、実際に阿武町内に新店という事例ができたら嬉しいですね。

この場を作るに当たって、最初の一年は空気や空間づくりを心がけ、ゆくゆくは町民同士で化学反応が起

り、町の活性化につながる場所になればいいなと思っています。

集落の点検や調査のお手伝いもしていますが、実は知らないことだらけで、まだまだ住民でも気付かない魅力が隠れていると思います。

今後はもっと阿武町を知って、人とのつながりを増やし、まだ眠っている町の真の魅力を掘り起こしていきたいですね。

column

#### 阿武町暮らし支援センター shiBano

薬局をDIYして誕生したコミュニティスペース「shiBano」。調剤スペースを台所へリフォームしており、ゆったりとカフェも楽しめる。電球や扉、窓ガラスなど、当時のままのものも数多くあり、それらを探る楽しさと、タイムスリップしたようなどこかほっこりした気持ちにさせてくれる場所。





スタッフ全員が、「どうしたらお客さまが心から喜んでいただけるか」を日々考え、多様なニーズに答えるための仕入れや各種サービスを展開している。明るく親切な接客が魅力的。



店内には、新鮮な寿司を味わえるブースもあるほか、カフェや温泉、町の特産品をたっぷり使ったメニュー豊富なレストランまでも揃っている。さらには、温水プールも併設されており、定期的開催されるABUウォーターボーイズによる『男のシンク口』は老若男女問わず人気。豊かな自然に囲まれた、休息・交流・情報発信の総合施設として魅力的なスポット。

「日本で初めての道の駅、  
阿武町の玄関口として、皆様をお待ちしております」



# 道の駅阿武町

## 【株】あぶクリエイション

阿武町は、日本で初めて道の駅を実験的に設置した場所なんです。「鉄道に駅があるように、道にも駅があってもよいのでは？」という思いが、いまや全国に広がる道の駅スタートのきっかけなんですよ。

取り扱っている商品は、地元でとれた新鮮な魚や野菜、特産品のキウイや梨を使った加工品が中心で、魚

は浜値なので「こんなに新鮮な魚がこの値段!？」と驚かれます。

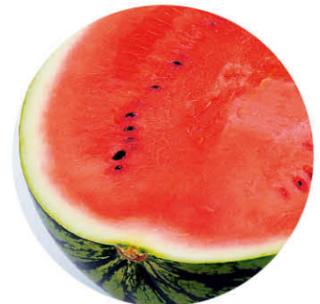
お客さまからのほめ言葉や喜びの声は何よりの原動力。夢は「日本の道の駅」と言われること。またそれが、町の活気につながるれば最高ですね。



特産のキウイを生かした各種スイーツが人気。見た目にも鮮やか。山陰沖の新鮮な水産物や多彩な農産物、阿武町特産の無角和牛なども販売している。



craftsman  
ship



# モノづくりの 鼓動

豊かな自然環境に囲まれた阿武町。  
日々、新鮮な山海の幸を生かした数々の特産が生まれ続ける、  
モノづくりの鼓動が聞こえる。



「愛情を込めただけ、  
応えてくれるんです」

# 無角和牛

## 【無角和種振興公社】

無角和牛は、大正9年、欧米で一番美味しいとされる肉牛「アバデー・アンガス種」の血統を持つ種雄牛が阿武郡大井村（現在の秋市）に導入され、在来の黒毛和牛との交配により誕生しました。その後も改良を続け、阿武郡一帯に広がり順調に頭数を伸ばしましたが、昭和40年代以降、「霜降り」に人気が偏った上、牛肉の輸入自由化が拍車をかけ、平成に

入って無角和牛は価格下落とともに頭数も激減。このままでは絶滅してしまうという危機感の中、平成6年9月、第3セクター方式による、無角和種振興公社が設立されました。一般的な牛肉は生まれて28〜30ヶ月で出荷されますが、無角和牛は約20ヶ月で出荷されます。放牧に適しており、阿武町の大自然の中、自家製の餌で二頭一頭を丹念に飼育しています。また、農業高校に牛ごと出向いて、生徒に分娩体験をさせる取り組みも行っています。今後は、種の継承はもちろん、それを育てていく人材の育成にも力を入れていきたいですね。

場長:矢次利典さん(左)  
松村直樹さん(右)



大自然の中で牧草をたっぷり食べて育った、美容と健康にいい赤身の牛肉。お年寄りから子どもまで楽しめる柔らかい肉質と、和牛独特の風味が特徴で、月に3〜4頭程度しか出荷されない希少な品。

# 日本酒

## 【阿武の鶴酒造】

もともと実家が酒蔵でしたが、私が生まれる前に休業しており、酒造りの知識等はありませんでした。ただ、物心ついた時からものづくりに興味があったので、東京で内装デザイナーをしていましたが、もっと「人間に近いものづくり」を求めているところ、酒蔵会社の求人を見つけて、純粋に「やってみたい」と思ったのが酒造りのきっかけです。

そこらから複数の酒造会社で修行を重ね、独立を意識していたタイミングで、実家に酒造免許が残っていることがわかり、阿武町に戻りました。戻った

後、県内の酒造会社の方のサポートをはじめ、町内の棚田で米作りを再開するということで、そこで取れる酒米と蔵の井戸水を使い、今は年間2万本ほど仕込んでいます。今、こうして酒造りをしているのは、全てタイミングと縁。阿武には人や縁をつなげる力があるのかもしれないですね(笑)。

これからは、さらに人々を笑顔にできる酒づくりとともに、雇用を拡大して阿武町に活気を生み、地元への恩返しを目指していきたいです。



「1滴に映り込む  
笑顔まで醸したい」

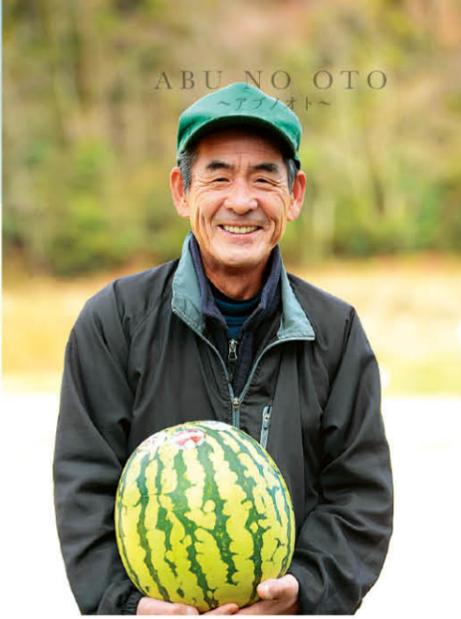


代表:三好隆太郎さん



ラベルデザインは、東京在住時の知人が作成。「SAKE COMPETITION 2017」や「2017年度グッドデザイン賞」を受賞するなど、三好さんの酒造りへの情熱を表している。





部会長:木村武和さん

福賀のミネラルスイカ「紅大」は、毎年7月中旬～8月に出荷。独特のシャリシャリ感が楽しめる。福賀すいかまつり(毎年7月開催)では、タネ飛ばしや早食い競争など、楽しい催しが盛りだくさん。



# すいか

標高350～400メートルの準高冷地にある福賀地区は、昼夜の寒暖差が大きい気候を生かしたスイカ栽培で知られています。この地でスイカ栽培が始まったのは、昭和63年の国の減反政策による米作りからの転作がきっかけで、水を嫌うスイカに福賀の傾斜地は適していたのです。通常、1株に2～3個実を付けるところを1果取りにこだわり、形・味・大きさを安定させており、ミネラル塩

を水にといて葉や土に散布し施肥管理をすることで、手間ひまかけた希少なミネラルスイカが生まれます。出荷先は、半数が全国への宅配、残りの半数は道の駅や直売所、農協から市場に出荷されます。スイカは完熟で収穫し、追熟しないため、本来の甘さを味わうには購入後すぐにピーターが多く、お礼の手紙をいただくことがあるのも励みの一つですね。

## 【福賀スイカ部会】

「スッキリした甘さが特徴で、飽きずにずっと食べられますよ」



## 【農事組合法人うもれ木の郷】

# 豆腐

うもれ木の郷は、山口県第二号の特定農業法人として、平成9年2月に設立しました。ほ場整備後の農地の運営について、「地域のために」をスローガンに地元農家と話し合いを重ね、都会に住む地権者にも協力してもらいながら、約3年かけて一本化。機械などを共同で使用し、生産コストを下げたり、それぞれの能力を生かし、適材適所に人を配置して共同で農作業を行ったりすることで、効率的な作業が可能となりました。

また、女性だけで組織される「四つ葉サークル」は、農作業が効率化されたことでできた時間で、地域を活性化しようというこで立ち上げられ

たグループです。うもれ木の郷で栽培された大豆「サチユタカ」を原料にした、こだわりの豆腐を作っており、道の駅や直売所、スーパーなどで販売。配達では、お年寄りの見守りなど地域のコミュニケーションにも役買っており、また、道路沿いの花の手入れを行うなど、阿武町に関わる方が笑顔になれる取り組みを進めています。

うもれ木の郷の名は、水田の中から、神代杉の根(うもれ木)が大量に掘り出されたことから。幹は奈良の東大寺の建築に供されたとの伝承があるが、詳細は謎に包まれている。うもれ木は彫刻や工芸品等に使用され、その価値は数百万円にのぼるものもあるのだとか。



「豆乳のような濃さと甘さがウチの自慢です」

組合長:田中敏雄さん(左)  
四つ葉サークル代表:中原智恵子さん(右)



まちを「支える」仕事を「支える」

# 1/4worksプロジェクト



オールシーズン、  
自分にあった仕事を  
阿武町は、「まちを支える仕事を  
支える」機能づくりに挑戦していま  
す。まずは、基幹産業である第次産  
業から季節ごと11/4年ごとに発  
生する仕事を「1/4works」と  
名づけ、まちの人と仕事を結びつ  
けていきます。

いま、働き方の価値観は多様化  
し、複数の仕事の組み合わせで生計を  
立てる「複業」や、農ある暮らしを実  
現する「半農半X」、子育てや起業・  
移住の準備期間として「小さく・短  
く働く」ことを希望する人が増えて  
います。

こうしたニーズや、地域の担い手に  
関する各種問題も視野に入れた1  
/4worksは、まちを支える仕  
事に触れ、感謝し、問題意識を共有  
する機会として根づいていくことを  
目指します。

## ～各種就業支援～

### ～漁業のススメ～

県と町の取り組みとして、新規に漁業を始める  
場合、実際に漁業者の船に乗り必要な漁業技  
術を習得できる研修制度があります。



### ～農業のススメ～

新規就農者には、就農支援金の支給や農業  
試験場などで研修を受けることも可能で、関係機  
関が一体となって多くの支援を行っています。



好きな海で好きな仲間と  
好きな仕事を

## 魚介類

### 【(株)宇田郷定置網】

宇田郷定置網は、国の「もつかる  
漁業創設支援事業」を活用し、20  
15年に株式会社として新設しまし  
た。地元の漁師はもちろん、秋田や  
広島、熊本からのターナーである「フ  
イツシャー」を含めた総勢14名が所属  
しています。

定置網漁は、全長  
約387メートル  
幅約76メートル、深  
さ約35メートルの網  
を沖に張っておき、回  
遊する魚が入ったこ  
ろを引き揚げる漁で  
す。この地区では昔  
から盛んでしたが、

後継者がおらず、村張りで行なってい  
た定置網を一度解散することになりま  
した。しかし、「定置網で宇田郷地区  
を活性化しよう」と地元の有志で定  
置網漁を再開し、現在に至ります。  
水揚げは、町内の道の駅阿武町、福  
の里直売所、うおなの郷へ直接運搬  
され、新鮮で安いと大好評です。

この社員は、休日や仕事の後に  
も船を出すほど、みな海や釣りが大  
好きです。釣れた魚で昼から一杯なん  
て贅沢も漁師の特権ですよ(笑)。  
今後は、より定置網漁の活性化を  
図ると同時に、魚の加工などにもチャ  
レンジして、地元で雇用を生んでいき  
たいですね。

代表取締役:廣石芳郎さん





# 歴史の 余韻



- ① 大覚寺
- ② 法積寺
- ③ 宇田八幡宮
- ④ 本光院



▲白須たたら製鉄遺跡 ▲阿武火山群:伊良尾山

◀ 尼子義久の墓  
大覚寺境内にある、中国地方を制圧した名門尼子氏の最後の武将、尼子義久の墓碑。

時空を超えた  
歴史の余韻が残る町

秀峰「伊良尾山」が34万年前に噴火した際に流れ出た溶岩流と火山灰により、粘土質の肥沃な大地が形成され、高品質な農産物の産地になった阿武町。古くから食料が豊富だった上、製鉄に必要な大量の木や水、土も揃うという豊かな自然環境からたたら製鉄も盛んで、多くの人がこの地で暮らしました。

また、阿武町は戦国大名の名門尼子氏の最後の武将である義久が生涯を終えた場所でもあり、尼子氏ゆかりのお寺や墓碑も残っています。

長い間自然の恩恵を受け、多くの人が暮らしてきた時代の息遣いや名残りが、今もなお余韻として残っています。



▲鶴ヶ嶺八幡宮

～復活した神楽～

2015年度福賀中学校閉校に伴い一時途絶えていた福賀・神楽舞。残っている台本や映像、記憶を頼りに、ふるさとの伝統をこのまま廃れさせまいと地域の有志により復活。今では地域行事への参加のほか、地方イベントへも参加している。



神楽を復活させた代表の木村喬さん

和の音に包まれる特別な時間

男たちの勇壮な三社神輿に少女たちの可憐な神子舞が華を添える「なご夏まつり」や、神輿が海上を御神幸し、海上の安全と大漁を祈願する「宇田十七夜祭り」など、毎年夏から秋にかけて、阿武町は多くの祭りでにぎわいます。

今も町内に残る歴史遺産とともに、人々が綿々とつむぎ、継承してきた思い。その思いを込めた数々の伝統文化には、町民たちの情熱と誇りがあふれています。



▲神輿と神子舞  
まつりの2日目には、昔ながらの面影が残る奈古の通りを神輿と神子舞の行列が練り歩き、幸あれと願う人々の思いが一つに結ばれる。



▲日本海イカダ大会  
中学生と一般の部に分かれた各チームが、それぞれ趣向を凝らした手作りのイカダに乗りこみ、スピードとアイデアを競う。



▲宇田十七夜祭り  
豊漁と航海の安全を祈願する管弦祭。二日間に渡り執り行われ、神輿が海中を渡るの、他の管弦祭では見られない光景。



▲福賀大農業まつり  
地元の農林産物や食材加工品の販売をはじめ、手づくりゲームコーナーや早食い競争など多種多様な催しが行われ、1日を通して楽しめる。





## ① 土地・自然

### 【阿武町のあゆみ】

明治22年 市制町村制	その後の 異動	現在
奈古村	奈古町 昭和17年 11月3日	阿武町 昭和30年 1月1日 合併
福賀村	福賀村	
宇田郷村	宇田郷村	

### 【土地面積】



資料:国土地理院

### 【土地利用状況及び林野率】



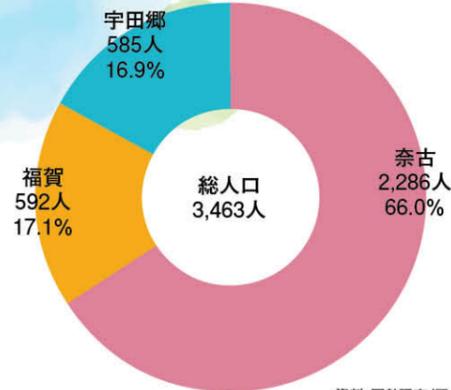
資料:山口県林業統計要覧

## 【統計資料】

# まちづくりの 福音

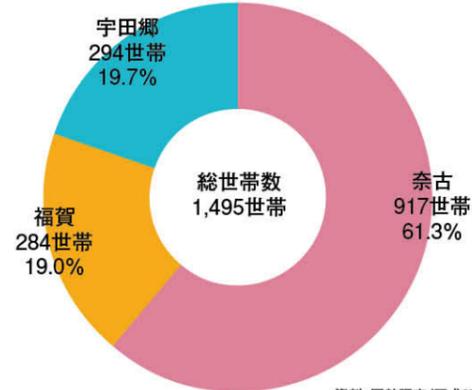
## ② 人口・世帯数

### 【人口】



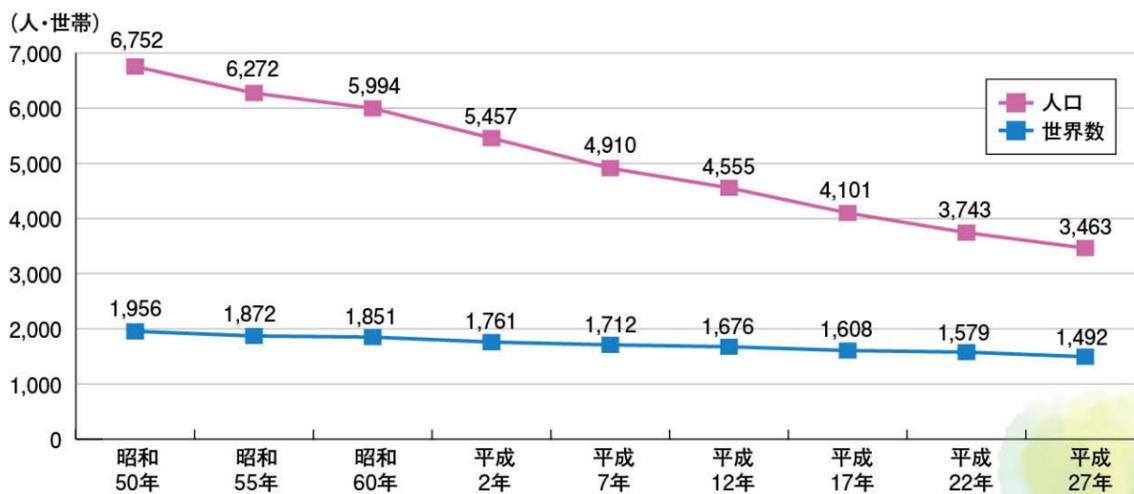
資料:国勢調査(平成27年)

### 【世帯数】



資料:国勢調査(平成27年)

### 【人口・世帯数の推移】



資料:国勢調査

## 町民の暮らしデータ

平成28年4月1日

<b>世帯</b> 1世帯に2.3人	<b>人口密度</b> 1km <sup>2</sup> あたり29.9人	<b>出生</b> 18.3日に1人	<b>死亡</b> 4日に1人	<b>結婚</b> 91.3日に1組
<b>離婚</b> 91.3日に1組	<b>転入</b> 3.1日に1人	<b>転出</b> 3.3日に1人	<b>救急搬送</b> 1.7日に1人	<b>自動車保有台数</b> 3.3人に1台
<b>交通事故</b> 52.1日に1件	<b>刑法犯発生件数</b> 45.6日に1件	<b>火事</b> 91.3日に1件	<b>消防団員</b> 11.6世帯に1人	<b>町職員</b> 53.3人に1人
<b>教職員</b> 児童・生徒5.5人に1人	<b>高齢化</b> 約2.1人に1人が65歳以上	<b>ごみ処理量</b> 1日約2.7t	<b>町予算(一般会計)</b> 1人当たり86.1万円	<b>町民税</b> 1人当たり約3.1万円

### 3 産業

#### ■産業別事業所数及び従業者数

区分	平成18年		平成21年		平成26年	
	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
	か所	人	か所	人	か所	人
総数	239	1,370	230	1,326	195	1,219
農林漁業	10	117	13	148	12	105
鉱業・採石業・砂利採取業	2	22	—	—	—	—
建設業	32	142	27	119	20	81
製造業	18	265	16	260	18	281
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—
運輸業・郵便業	—	—	4	18	2	4
情報通信業	2	3	—	—	—	—
卸売・小売業(飲食店)	78	233	65	212	50	208
金融・保険業	2	13	2	13	2	12
不動産業・物品賃貸業	2	2	2	4	1	1
学術研究・専門・技術サービス業	—	—	2	4	2	5
宿泊業・飲食サービス業	7	37	14	65	14	71
生活関連サービス業・娯楽業	—	—	22	58	19	44
医療・福祉	11	114	13	126	15	172
教育・学習支援業	11	105	13	107	8	87
複合サービス事業	10	128	8	50	3	11
サービス業	46	135	21	81	21	72
公務(他に分類されないもの)	8	54	8	61	8	65

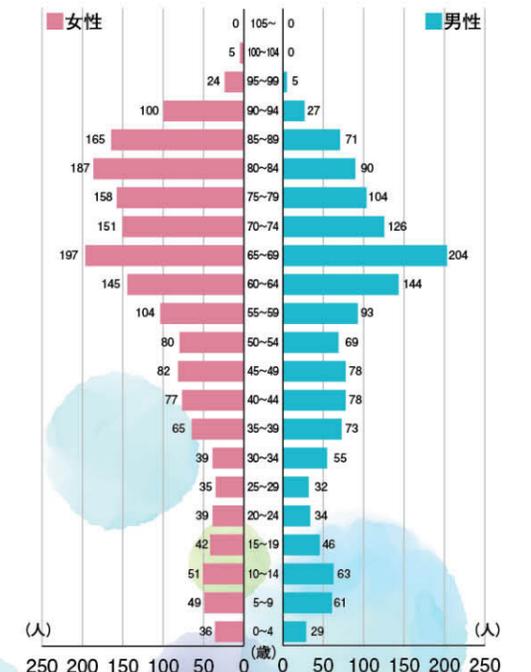
資料:事業所統計調査、経済センサス

#### ■人口動態(自然動態・社会動態)の推移

区分	自然動態			社会動態			人口増減
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減	
	人	人	人	人	人	人	
昭和45年	61	90	△29	361	577	△216	△245
昭和50年	89	94	△5	305	408	△103	△108
昭和55年	55	82	△27	261	345	△84	△111
昭和60年	60	77	△17	177	274	△97	△114
平成2年	37	97	△60	111	171	△60	△120
平成7年	23	71	△48	166	166	0	△48
平成12年	20	61	△41	146	148	△2	△43
平成17年	20	97	△77	127	121	6	△71
平成22年	16	83	△67	123	123	0	△67
平成27年	20	92	△72	117	112	5	△67

資料:山口県人口移動統計調査(暦年)

#### ■男女別・5歳階級別人口構造



資料:住民基本台帳(平成31年1月1日現在)

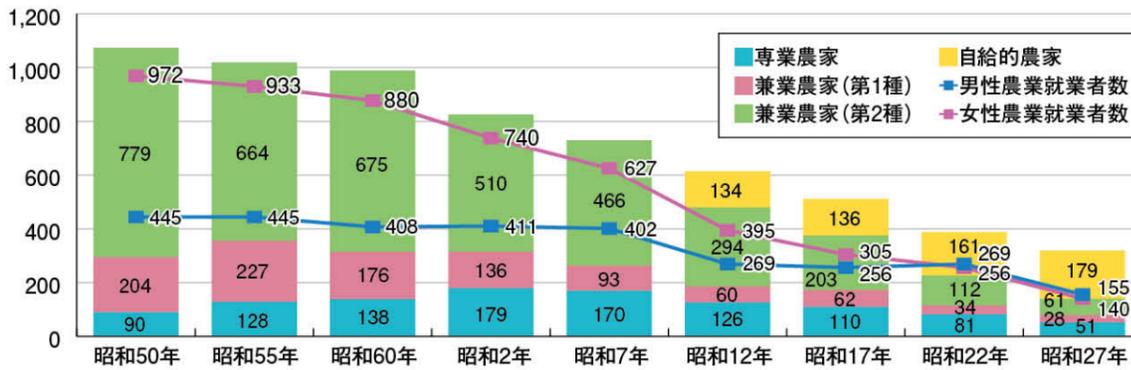
#### ■年齢別人口の推移

区分	老年人口		生産年齢人口				年少人口		計		
	65歳以上		50~64歳		30~49歳		15~29歳				
	人	%	人	%	人	%	人	%			
昭和45年	1,063	14.3	1,278	17.2	2,132	28.8	1,315	17.8	1,621	21.9	7,409
昭和50年	1,094	16.2	1,392	20.6	1,869	27.7	1,183	17.5	1,214	18.0	6,752
昭和55年	1,172	18.7	1,506	24.0	1,591	25.4	955	15.2	1,048	16.7	6,272
昭和60年	1,284	21.4	1,602	26.7	1,396	23.3	725	12.1	987	16.5	5,994
平成2年	1,404	25.7	1,420	26.0	1,219	22.4	583	10.7	831	15.2	5,457
平成7年	1,539	31.3	1,143	23.3	1,102	22.4	507	10.3	619	12.6	4,910
平成12年	1,737	38.1	1,003	22.0	911	20.0	442	9.7	462	10.1	4,555
平成17年	1,731	42.2	986	24.1	669	16.3	381	9.3	334	8.1	4,101
平成22年	1,648	44.0	955	25.5	567	15.2	269	7.2	304	8.1	3,743
平成27年	1,608	46.4	768	22.2	550	15.9	232	6.7	305	8.8	3,463

資料:国勢調査

#### ■農家数及び農業就業人口

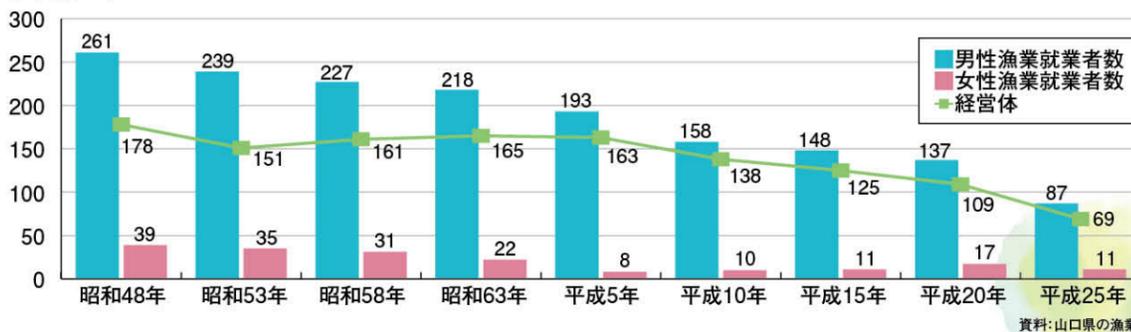
(戸・人)



資料:農林業センサス

#### ■漁業経営体数及び就業者数

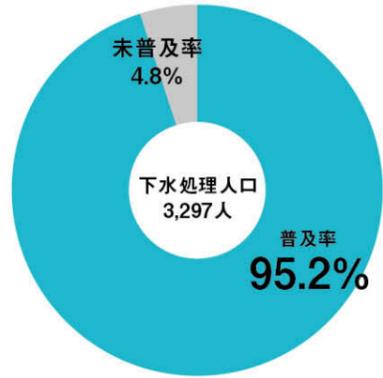
(経営体・人)



資料:山口県の漁業

## 5 生活環境

### 【下水処理の状況】



資料:阿武町、国勢調査

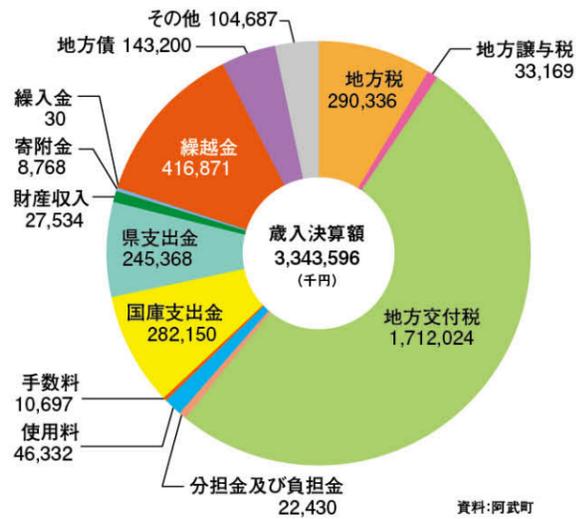
### 【消防団現有勢力】

区分	本部	奈古	福賀	宇田郷	計
分団数等	1団体	3団体	1団体	1団体	6団体
団員数(実員)	13人 (うち女性8人)	64人	29人	23人	129人
水槽付消防ポンプ自動車	—	1台	1台	1台	3台
普通消防ポンプ自動車	—	1台	—	—	1台
小型動力ポンプ積載車	—	3台	2台	2台	7台
小型動力ポンプ	—	3台	3台	2台	8台
救急自動車	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

資料:阿武町

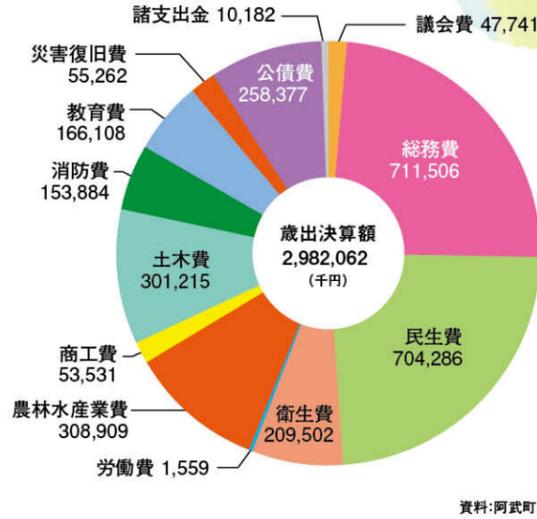
## 6 行政・財政

### 【平成27年度:一般会計歳入決算額】



資料:阿武町

### 【平成27年度:一般会計歳出決算額】



資料:阿武町

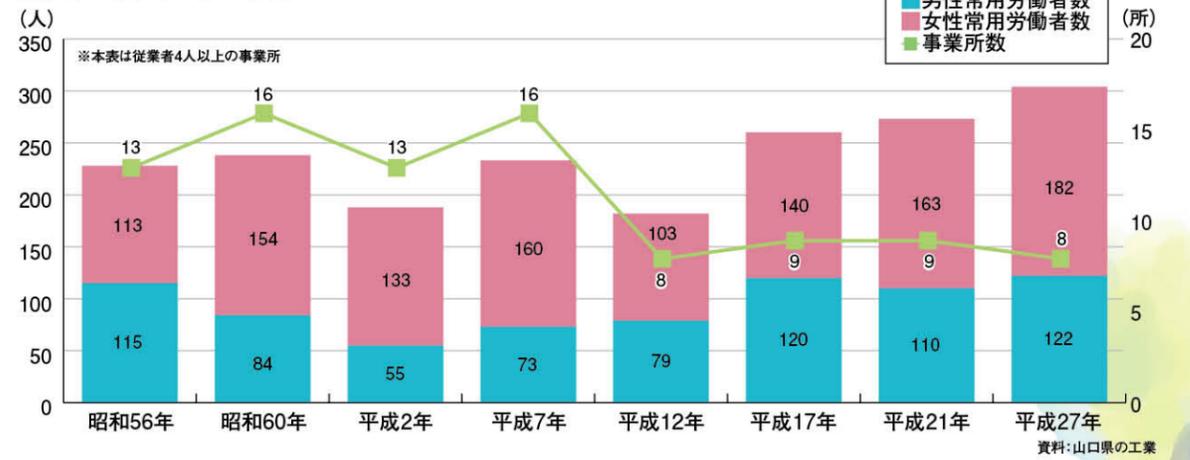
### 【平成27年度:財政指数の推移】

区分	交付税決定総額	普通交付税	特別交付税	基準財政需要額A	実質公債比率	
					単年度	3ヵ年
平成2年度	0.16	6.9	68.2	15.1	—	—
平成7年度	0.16	7.7	75.3	17.3	—	—
平成12年度	0.15	17.8	73.2	9.0	—	—
平成17年度	0.18	15.0	79.8	9.4	—	—
平成22年度	0.16	13.0	76.7	—	5.0	8.0
平成27年度	0.17	15.4	78.3	—	1.7	2.2

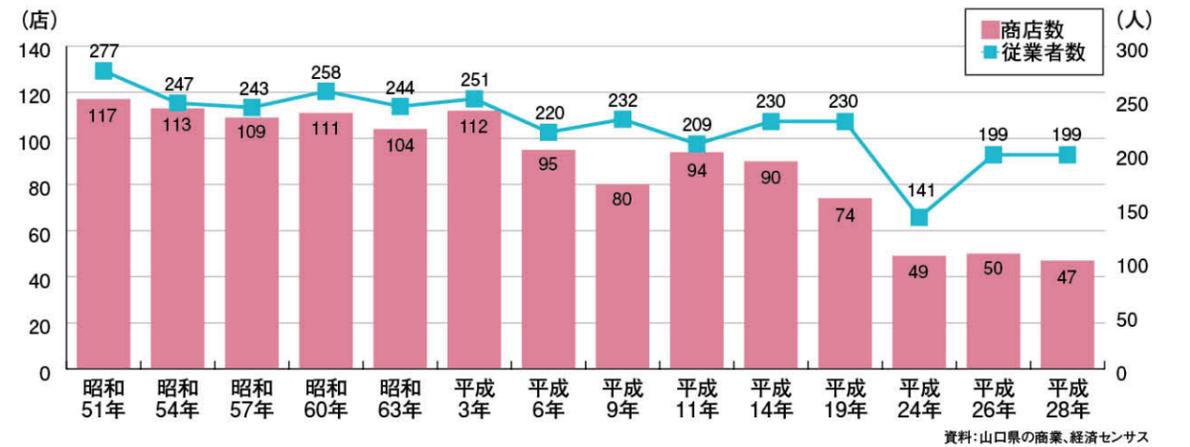
※公債比率は、平成18年からは地方債協議制度移行に伴い、一定の起債制限比率見直しを行った新たな指標である「実質公債比率」が導入された。

資料:阿武町

### 【事業所数・従業者数】



### 【商店数及び従業者数】



## 4 教育環境

### 【小学校児童数の推移】

区分年	阿武小学校			合計
	奈古小学校	宇田小学校	福賀小学校	
昭和45年	417	153	148	718
昭和50年	296	94	90	480
昭和55年	287	64	78	429
昭和60年	289	78	83	450
平成2年	231	67	65	363
平成7年	185	46	56	287
平成12年	122	41	41	204
平成17年	83	20	24	127
平成22年	94	—	16	110
平成27年	120	—	13	133

資料:学校基本調査

### 【中学校生徒数の推移】

区分年	阿武中学校		合計
	奈古中学校	宇田中学校	
昭和45年	253	112	462
昭和50年	205	72	353
昭和55年	131	38	211
昭和60年	133	37	200
平成2年	139	47	227
平成7年	111	28	169
平成12年	83	18	129
平成17年	78	24	102
平成22年	48	15	63
平成27年	53	6	59

資料:学校基本調査

# 01

## 明日につなぐ 活力ある産業づくり

恵まれた自然条件と地域特性を最大限に生かした地域産業の振興を図ります。また、リニューアルした道の駅を産業活性化の拠点とし、新たな産業の創出等を図ります。

さらに、雇用開発を進め、若者、女性、高齢者がはつらつと働くことができる、明日につながる活力ある産業づくりに努めます。



▲阿武町特産のキウイフルーツ



▲地域資源を生かした作業道づくり



▲キジハタ稚魚の放流

# 02

## みんなで支える 安心な暮らしづくり

「みんなでつくる健康の輪づくり」という健康意識・元気意識の啓発・実践に努めるとともに、保健・福祉・医療が一体となった生涯現役の元気あぶ町民の創出に努めます。

また、公的福祉と民間福祉とが連携して、子どもから高齢者まで全ての町民が支え合う、健康で安全・安心な暮らしづくりに努めます。



▲コミュニティカフェえんがわ



▲ワハハ教室で体操



▲園庭で遊ぶ園児たち

# 打てば響く、 選ばれるまちへ

## 第6次 阿武町総合計画

社会情勢が著しく変化する中、個人の豊かさの尺度も多様化し、大きく変化してきました。特に「地方創生」へ向けた喫緊に取り組む課題に対応するためには、町民憲章で定める阿武町の将来像である「夢と笑顔あふれる『豊かで住みよい文化の町』」の創出に向けて、各種の施策展開を図る必要があります。

そこで、今後は、これまで培ってきた政策実現のためのノウハウを生かしつつ、阿武町が本来持つ豊かな特性や人、自然、文化などの資源を最大限に生かし、町民との対話を重視しながら、その意見がヒート感をもって町政に反映されるまち、町民の誰もが夢や希望を持ち、明るく和やかに、それぞれ置かれた環境の中でいきいきと暮らしていけるまちを目指し、以下の総合計画を策定します。

### 将来像

夢と笑顔あふれる「豊かで住みよい文化の町」

### 基本理念

- 1: 自立と協働のまちづくり
- 2: 若者が定住しやすいまちづくり
- 3: 安全で安心なまちづくり
- 4: 町民が主役のまちづくり

### 施策の大綱



# 05

## いきいきと 未来に輝く人づくり

町の宝である子どもたちの、生きる力やふるさとを愛する心を育み、さらには、確かな学力を身につけた未来に輝く人づくりに努めます。また、町の自然・歴史・文化・産業を

生かした生涯学習社会を構築し、地域教育力の活性化を図ることにより、自立と共生を目指した人づくり・地域づくりに努めます。



▲カくらべ綱引き大会



▲復活したジャズフェスティバル



▲福賀小児童によるふるさと夢太鼓

# 06

## 連帯のきずなが 広がるしくみづくり

町民に行政情報を積極的に提供し、町民の意見や知恵が行政に十分に反映されるしくみづくりに努めます。また、まちづくりのあらゆる場面において、男女共同参画社

会の構築に努めます。さらに、広い視野を持った人材育成や情報発信に取り組むとともに、町民と行政が協力して、連帯のきずなが広がるしくみづくりに努めます。



▲世代交流しめ縄作り



▲花嫁花婿修行プログラム



▲カナダから来た保育士助手と異文化交流

# 03

## 住みよい 快適な環境づくり

おおむね整備が完了した生活道路網、上下水道の整備、河川・海岸保全、ゴミ処理、環境保全、消防、交通安全や防災対策などの生活環境基盤については、引き続き

老朽化や機能の低下への対応を進めます。また、住民の交通手段の確保については、新たな交通網の整備等も視野に入れ、利便性の向上に努めます。



▲交通マナーアップ作戦



▲コミュニティワゴン



▲消防出初式観閲行進

# 04

## ともに築く 定住のまちづくり

住宅整備や宅地の造成・分譲、また、魅力ある定住促進対策や子育て支援対策等による定住を進めるとともに、就業の場の確保、起業家の育成などにより、若者に

魅力あるまちづくりに努めます。また、幅広い年齢層のU・J・ターンの受け入れ対策なども展開しながら、官民が連携した定住のまちづくりに努めます。



▲宇田郷定置網の復活



▲若者お気楽交流事業

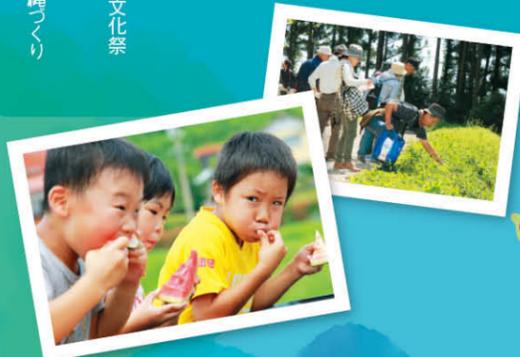


▲若者スマイルキッチン

# ABU TOWN MAP

## 年中行事

- 1月 ●阿武町成人式  
●阿武町消防出初式
- 2月 ●阿武町栄光文化賞・阿武町「子栄光」賞授与式
- 3月 ●阿武町戦没者追悼慰霊祭
- 4月 ●自然観察と山菜狩り  
●あぶ芸能祭
- 6月 ●ABU3ソフトボール大会
- 7月 ●I・love・あぶ町クリーンアップ作戦  
●清ヶ浜海水浴場海開き  
●ちびっこまつり  
●宇田十七夜祭り  
●なご夏まつり(日本海イカダ大会)  
●おやしソフトボール大会
- 8月 ●宇田郷盆踊り大会  
●奈古地区自治会親睦ソフトボール大会  
●福BONまつり・花火大会  
●奈古地区納涼盆踊り大会  
●宇田郷地区ふれあい球技大会  
●間伐体験と木工教室  
●職域ソフトボール大会
- 9月 ●梨フェスティバル  
●福田祭り  
●宇田八幡宮秋季大祭  
●宇生賀祭り  
●鶴ヶ嶺八幡宮秋季大祭  
●木与八幡宮秋季大祭  
●菅原神社秋季大祭
- 10月 ●自然探訪ときのご狩り
- 11月 ●宇田郷ふれあい祭り  
●福賀大農業まつり  
●さん3ふるさと祭り・奈古文化祭
- 12月 ●力くらへ綱引き大会  
●福賀・奈古世代交流しめ縄づくり





日本ジオパーク認定

# 『萩ジオパーク』

地球の鼓動に  
触れる場所

萩市、阿武町の全域と山口市阿東地域で構成され、大きなカルデラから小さな単成火山まで、過去1億年間にわたる多様な火成活動の変遷をたどることができる「萩ジオパーク」は、地球の鼓動により生まれた美しい自然の景観や生命の誕生を、見て、聞いて、感じる場所。

2015年4月、ジオサイトの保全並びに教育及び地域振興における活用を図るジオパーク活動を推進する母体として、萩ジオパーク構想推進協議会が結成され、2018年9月に「日本ジオパーク」に認定されました。地域が活性化し潤う仕組みづくり、持続可能な発展を目的に、2市1町の行政団体や市民ガイド活動団体等が参画しています。萩ジオパークを通じて、美しく豊かな阿武町の大地と自然、大地と人が共に歩んできた歴史を発信し、より魅力的な阿武町を目指します。



## 町長ごあいさつ

紺碧の海と緑豊かな阿武町は、昭和30年1月に奈古町、福賀村、宇田郷村の3つが合併して発足し、今年で64周年を迎えました。

阿武町では平成27年に第6次阿武町総合計画を策定するとともに、30年後を見据えた阿武町版総合戦略を策定し、「選ばれるまちをつくる」ために施策を積極的に展開しています。

今回制作した町勢要覧のテーマは、「ABUNOOTO」アブノオト」です。普段の生活の中に古き良き日本の音が残るまちなかで、呼応し共鳴し合う仲間がいること、そして懐かしさも新しい阿武町をお見せできる一冊となりました。

この要覧を通して、阿武町に息づく生活や今の姿を感じてもらいたいと思います。私たちはこれからも他の自治体がない、他の自治体に先駆け、打てば響く、町民の一人ひとりに寄り添うまちづくりを進めていく所存です。

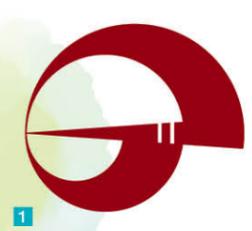
阿武町長  
**花田 憲彦**



## アクセス・インフォメーション



- 阿武町へのアクセス方法**
- ▼車で
    - 萩から国道191号を益田方面へ15km
    - 益田から国道191号を萩方面へ48km
  - ▼バスで
    - 萩から防長バスを利用
  - ▼鉄道で
    - JR山陰本線(奈古・木与・宇田郷)の各駅を利用
  - ▼飛行機で
    - 萩・石見空港からJR山陰本線または、乗合タクシーを利用



- 1町章**  
一般公募により昭和41年11月1日に制定されました。カタカナの「アブ」をうまくに図案化したもので、躍動と躍進を表現しています。
- 2町の花 しやくなげ**  
町内にしやくなげの自生地があるところから、昭和54年3月20日、住民投票により制定されました。
- 3町の木 くすきの**  
鶴ヶ嶽八幡宮のくすきが県指定天然記念物となったのを機に、昭和54年3月20日住民投票により制定されました。



～アブノオト～

# ABU NO OTO

## 阿武町町勢要覧2019

- 発行／阿武町役場
- 発行日／2019年3月  
〒759-3622  
山口県阿武郡阿武町大字奈古2636番地  
TEL:(08388)2-3111  
FAX:(08388)2-2090  
<http://www.town.abu.lg.jp>
- 編集／(株)ジャパンインターナショナル総合研究所